

# 遊心® Story

## 設立の経緯

少子高齢化や経済格差などの社会変化に伴い、子育てストレスは年々増加傾向にあります。子どもたちもまた学歴社会、いじめ、自然環境破壊など様々な社会・自然環境の課題に直面し、子どもが子どもらしく遊び、過ごすことが難しくなっています。

遊心は、これらの課題を解決するため、身近な自然を家族と体験することをベースとして「自然と家族と地域」がともにある社会を築き、未来を担う子どもたちひとりひとりが笑顔で「しなやかに自立し生きる」ことのできる、持続可能な社会をめざして2010年に設立いたしました。

## 遊心®は人格形成の土壌を耕しています

遊心では、まず人格形成の一番の土台となる、0歳からの親子関係（家庭教育）を行っています。「ヒトは自然の一部である」というベーススタンスの基、自然はいつも人間の思い通りではなく、時には危険を察知する力も必要になります。しかしその体験がヒトの本来の感覚と感性を研ぎ澄まし、好奇心を満たします。様々な表情を見せる刺激のある世界が“自然”なのです。

また、自分の気づきを身近な人（家族）に受け止めてもらえる、その喜びは何倍にも膨らみます。子どもにとっては愛着が形成され、大人では自信がついて、周りのものを大切にしたい愛しいと思う心が育まれると考えます。

## なぜ、親子一体型の身近な自然体験なのか

遊心では、しなやかに自立するためには、自らの体験による気づき、その気づきを促し見守る環境、気づきの探究、自らの行動に移すトレーニングの段階が必要と考えます。段階は子どもであれば発達、大人であれば経験値の個性・タイミングがあり一人ひとり違います。そのため様々な手法を組み合わせることが大切です。

また気づき - 思考 - 行動の糸をつむぐには、何度も繰り返してチャレンジすること（トレーニング）も必要になります。限られた時間・環境で行うには日常で体験ができること、例えば緑豊かな自然だけでなく、身近な公園や散歩道に生き物・植物の「命が息づいている」ことに喜びを見つける能力が必要です。

## パイオニアとしての遊心®

日本で初めて0歳からの親子一体型自然体験プログラムを開発し、上野恩賜公園をはじめとして、都立公園、区立市立公園、町なか、園庭などプログラムを実践しています。保護者（教育・保育者）が自ら子どもへ実践できる、動物観察・環境教育・体験学習法・子育て支援手法を取り入れたトレーニングプログラムを開発（遊心メソッド™）。それぞれの専門分野スタッフがチーム遊心としてサポートしています。